

## すみだタウンミーティング 議事録

<b>テーマ</b>	コロナで変化？これからの地域・これからのつながり
<b>日時</b>	令和3年1月16日（土）午前10時半～正午
<b>会場</b>	オンライン（Zoom） （配信会場：墨田区役所13階 131会議室）
<b>参加者</b>	46名
<p><b>&lt;内 容&gt;</b></p> <p><b>【テーマ1】「地域活動している方の現状・課題」</b></p> <p><b>【テーマ2】「実践していること・新しいアイデア・工夫」</b></p> <p><b>区民A</b> 様々な活動をしているが、コロナ禍でほとんどのものが中止になってしまっている。その中で健康体操だけは、会場を屋外に移して6月から再開している。また、活動する際には、感染症対策として消毒やソーシャルディスタンスの確保等を行っている。</p> <p><b>区民B</b> 町会は、やはりコロナ禍ではなかなか集まりづらい。しかし、高齢者が多いのでZoomは難しいと思う。それでも少人数でやっているというところもあるのではないか。私が所属する町会でも高齢者が多いため、オンラインのみの会議はできず、会場とオンラインを併用した会議を行っている。</p> <p><b>区長</b> 町会活動がこのコロナによって分断されている状況は何っている。町会を引っ張っていくのは町の先輩方。私も町会の副会長として活動していたので、町会活動の内容は把握しているが、町の先輩方、そして高齢者がコロナに感染してはならない。そういった中で、活動が限定されてしまう。また、全ての方がオンライン、Zoomに転換することは難しく、そこに課題があるということのを改めて認識した。</p> <p><b>区民C</b> 子どもたちにスポーツを教えているが、予定していたほとんどのスポーツイベントは、密を避けるため中止にした。また、緊急事態宣言下で、子どもたちを集めて練習するのはどうなのかという話が持ち上がり、やむなく練習も中止にしている。 連絡網をいわゆるSNSで構築し、イベント・練習への参加の可否の確認やその他意見交換等を行うようにしている。スタッフの中には高齢の方が多く、かなり苦労した。 要するに、当会では回覧板の代わりにSNSを活用している。</p> <p><b>区民D</b> 私の所属するNPO法人では、0歳から3歳の子どもやそのお父さん・お母さんを対象に、英語教室、クリスマスコンサート、誕生日会等の様々なイベントを実施していた。4、5月の緊急事態宣言下では一時活動を休止していたが、6月からは、参加者から要望があり、事前予約や人数・時間制限を徹底して行い、活動を再開している。 地域に繋がりが無い子育て世代同士が交流できる場を作り、コロナ禍でも安全安心に集まれる施設を目指し運営している。</p>	

**区民E** 私たちは学童終了後の小学4年生から6年生を対象に居場所づくりを行っている。

前回の緊急事態宣言中はLINEを活用し、オンライン朝礼を実施した。朝起きること自体が億劫になってしまっている児童が、身なりを整え、他人と顔を合わせる機会の創出を行った。

夏休みには、孤食、1人でご飯を食べる子どもをケアするため、サマースクールを4日間運営した。この時は助成金を活用し、飛沫防止のパーテーションを購入・設置した。また、定期的に時間を決めて消毒を行い、事前申込制を取って、参加人数の管理をした。

秋から平日に宿題サポート会を実施しているが、新型コロナウイルスの影響か、参加者が集まらない状況である。告知を強化したいが、積極的に参加を呼びかけづらい状況である。そのあたりの配慮が難しい。

現在使っている告知の機能としては、町会に協力いただき、回覧板や掲示板を活用している。

**区長** 地域で子どもやその親に対する支援をしていただいていることに感謝したい。今お話のあった困りごとがありながら、コロナ禍でも工夫をして活動をしていることについて参考にさせていただきたい。また、さまざまな困りごとが解消できるように力を入れていけたらと思う。

厳しい状況の中で判断をしなければならない。一つは中止という判断。人数制限等の工夫をして開催するという判断もある。また、周知をしたいけれど、たくさんの方に来てくださいと呼びかけづらい状況の中で、どんな工夫をするのかという判断もしていかなければならない。非常に皆さん大変な思いをされているということを感じた。

墨田区に住む子育て世代がいい町だと感じるように、またこのような活動を継続していただくための支援等について、知恵を絞っていかねばならないと感じた。

様々なイベントの開催・中止等について、様々な考え方があると思うが、先日の成人式や、今回のタウンミーティングについては中止ではなくリモート開催とした。こういった代替案を、さまざまな工夫を行い、中止に変わる何かを、大人が考えてあげる必要が出てきていると感じている。

**区民F** 墨田区でさまざまな活動しているが、ここ数年間は図書館を使った小学生の「調べる学習」を支援する活動を行っている。「調べる学習」が楽しく行えるようなボードゲームのクイズを作成する取り組みの中で、ワークショップ等を行っているが、今年度は集合型のワークショップがほとんどできなかった。

現在は墨田区の図書館・児童館に協力をいただき、子どもたちを集めるのではなく、ボードゲームの作成キットを無料で配布するプロジェクトを行っている。多くの子供たちにステイホームで参加してもらえるようにコロナ禍でも工夫しながら、「調べる学習」の支援を行っている。

**区民G** 盆踊りのアップデートを全国的に展開している。一昨年はさくら橋の上で盆踊りを開催しようとしたが、雨天で小梅小学校での開催となった。昨年は12月24日から4日間、隅田公園のそよ風広場でクリスマスマーケットを行った。

また、プロジェクションマッピングで1.5メートルの格子を地面に投影し、その格子の枠内で動けば、屋外でもソーシャルディスタンスが守れるといった試みを行っている。今の劇場や映画館は、座席があり、ソーシャルディスタンスを取れるため、徐々にお客さんが戻ってきているが、盆踊りや屋外のイベントの開催は難しいと感じている。そこで、どんなことができるかと考え、少しでも屋外のイベントを開催しやすくするように、これまでの経験を生かしてプロジェクションマッピングを利用したこの試みを行っている。

様々な情報を共有しながら、今年はこの方法論で様々なことに取り組んでいきたいと考えている。今後も屋外で安全にイベントを行える方法を模索していきたい。

**区民H** 町会等で防災担当をしている。年に1回、6町会と消防、警察、消防団、小学校等の代表が集まって区防災課が中心になり、地域防災会議を開催している。情報交換の場として新たな気づきがあり、非常にいい会議体だが、あくまでも座学で、年に1回程度では、フィードバックがなかなかできない。防災を広く普及するためには、せつかく小学校、いわゆる指定避難所で開催しているので、避難所の運営や宿泊体験のようなプログラムをやっていただきたい。コロナ禍では非常に難しいことは理解しているが、今回東南アジアでも発生しているが、実際に地震が発生した場合に避難所運営をぶっつけ本番で行うことになり、非常に厳しくなると思う。区の強力なリーダーシップで、できれば大規模ではなく中規模な訓練の実施の指導をお願いしたい。

区の方では水害の避難所マニュアルを新しく作っていただいているが、できれば、避難所はたくさんあるので、それぞれの小学校・避難所に合わせたマニュアルを作成いただきたい。

**区長** まず、盆踊りは墨田区の代表的なカルチャーであり、この現状の中でどのように保ち、そしてまた、新しい日常の中で復活させていくのかという、非常に大きなテーマの一つであると感じた。

隅田公園をリニューアルして、新しく設けたそよ風広場、あの場所は今コロナ禍でも一部にぎわっている。これからどんな使い道をしていこうかというところ。そよかぜ広場とイベントのマッチングという点でぜひ活用いただければと思う。また、ソーシャルディスタンスを整えるといった点で、プロジェクションマッピングを利用した工夫は様々なところで活用できると感じた。

そして、防災も区政の優先課題で非常に高い位置を占める。一昨年10月の台風19号では、区民の皆さんに大変なご心配と、不安な思いをさせてしまった。その後、しっかり防災対策を整えようとした矢先に、新型コロナウイルスの感染拡大が起きた。避難所運営をはじめとする実地の訓練は重要であり、また情報交換がしにくい状況にあるが、ここをしっかりと準備しないとけない。次に台風が来る頃に、前回から対応が進んでいなかったとならないように、しっかり取り組んでいかなければならない。

明日、1月17日は阪神淡路大震災の日。こういう機会・節目を捉えて、区民の皆さんと、この状況の中で何ができるか、防災に対してどんな思いを共有するかということに取り組みなければならぬと改めて感じた。

**区民 I** 元小学校の教員で、現在はNPO法人で活動を共有し、防災教育に関わっている。当法人で作成している防災観光風呂敷を学校教育で活用できないかということで、指導案を作成している。学校教育で使っていただきたい、活用していただきたいということで、提案していきたいと考えている。

なぜ小学校かということ、子供たちから、すみだの防災を広めていきたいと考えているため。できれば小学校だけではなくて中学校にも、保護者も含めて広げていきたい。まだ指導案を作った段階で、実際には動いていない。現在、教育現場はコロナで混乱しているところだと思うが、何かの際にこういった意見を反映させていただければと思う。

**区民 J** 平日は都外で働いている。今年になって判明したことであるが、昨年末に仕事で同行していた関係者が濃厚接触者になった。そうすると私も濃厚接触者にあたるかもしれないと思い、テレワークの制度が会社にあったので、2日ほどテレワークを行った。結果的には、その方が濃厚接触者になったタイミング等から、私は濃厚接触者とはならなかった。

この場合に、墨田区では、PCR検査センターをつくった等、そういったところもサイト等でアナウンスをしていたが、どういう経緯で、どういう形でPCR検査を受けることができるのか、といったところがわかりづらいところもあった。そういったところが、皆さんにちゃんと伝わっているのかと。

私がたまたまこういうタイミングだったので、調べて分かりづらい、ちゃんと受けられる環境に今あるのか等、そういったところが不安だったので、今の墨田区の状況等、その辺りを伺えたらと思った。

**区長** 区民の皆様にはしっかりと届けて安心して生活できるように、また、わかりやすく区民の皆様には説明をしていくということに取り組んでいる。現状は、東京都全体もそうであるが、墨田区内も大変感染者数が増えている。やはり入院させたい方を入院に結びつけられない等、テレビで出ているような状況が各区にある。感染者数増加の中で、PCR検査等も増やしている状況。

いずれにしても、先ほどお話のあったとおり、墨田区の広報紙、それからホームページ・SNS等、さまざまな情報発信をさせていただいている。そこを見ていただくということが一つ。それから、遠慮なく、発熱相談センター等に連絡をいただいて、適切に私どもが皆さんにお知らせをしていくということは今この状況の中でも、心がけていきたい。

### 【テーマ3】「今後の展開・すみだの地で何ができるか」

**区民 K** コロナに感染しないということはもちろん重要であると思うが、一方で、家に閉じこもっている人たちや、実際に自殺する人も増えてきている。一番大事だと思うのは、コミュニケー

ションそのものを諦めないこと。もちろん自粛すること、ステイホームすることも大切だと思うが、逆に、どんなふうコミュニケーションを取っていったらいいのだろうかということそれぞれの立場で考える。抑え込むのではなく、よりアクティブにコミュニケーションを取ること、それをそれぞれの立場で考えて実行することが大事だと思う。ここをあきらめてしまうと全員が孤独になってしまう。区全体でも様々な問題が生じると思う。

**区民L** 私は墨田区生まれ、墨田区育ち、学校が私立だったが、学校から帰宅する途中にいろんな人たちが、こんにちは、おはよう、おかえりなさいと言ってくれた。そういった絆が徐々に薄れていると感じる。オリンピックが東京で初めて行われた時は本当に人が多くていろんなところで挨拶等があったと思う。そういったものの再認識をしていくことが重要。

墨田区は、「人と繋がる」というところで、朝はおはよう、昼はこんにちはと挨拶できるような、そういった墨田を作っていかなければならないと今日の皆さんの話を聞いて感じた。

**区長** 「コミュニケーションを諦めない」、この時期に非常に適切なワンフレーズの言葉。これは本当にその通りで、どのようにこれを徹底していくのかということだと思う。

墨田、下町のよいところ、助け合い支えあって、いい意味でおせっかいな町。暗くなって下を向く、または家に閉じこもって出ない、挨拶をする機会が減り、それが日常になっては困る。こういった時期であっても「おはよう、こんにちは、元気になっている？」といった、近所で、町単位で、そういったコミュニケーションがある墨田区を大事にしたいと思う。当然コロナ収束後もそんな明るい活発なまちにしていきたいと感じている。

**区民M** 今、世の中がコロナ一色だが、ある程度対策がされてきて、コロナがそれほど問題ではなくなった時に何ができるか、どういう墨田区にするか、何を展開するかということが重要。今時間がある時にもっと検討しておけば、もっと前向きに取り組んでおけばよかったということにならないような、心がけ、取り組みが重要だと思う。

隅田公園のそよ風広場、リニューアルしたことでとても綺麗になり、コロナ禍でもある程度の人出があって、区民にとってあるいは運営の方にとって、いい環境になってきたと思う。

ただ一つ気になるのが、三ツ目通りの横断。源森橋から50メートルから100メートルぐらい南のところに横断歩道があり、あと小梅牛島通りの北側に行くとも横断歩道があるが、新たな回遊路が横断できないことは今後問題になると思う。すでに警察、関係者と調整を行っていると思うが、コロナが収束すると、人出が戻ってくると思う。リバーウォークもそよ風広場も今でも相当な人出がある。これで外国人観光客が戻ってきたら大変なにぎわいになると思う。

また、小梅船着場の使用がこれから始まるということで、それを考えると楽しみで仕方ない。だからこそ、今時間のあるときに検討が必要だと思う。

**区民N** 話を聞いていて、発言の中で墨田らしいと感じたのは、挨拶が非常にできる町、あくまでもコミュニケーションを諦めない等。もともと墨田区は人と人の距離が近い地域柄で、私もその地域性が好きで、今暮らしている。

今、人と人が距離を縮められない中で、何かすみだらしい、何かできることと思ったのは、家の前に張り紙をすとか。私がこれまで見て素敵だと思ったのは、家の前に「今日の挨拶ありがとうございます」のように俳句の一句みたいなものを掲げている、そういう墨田らしい文化がある。町会の集まりは難しく、回覧板や掲示板については町会によっては危険だからやめる判断をされていることもある。また、町会・公共の回覧板は一般の方には使いにくい部分がある。何か路上や家の前に貼り出していいような、人の目線に近い位置で、人と人の距離を気にせずに、気軽な一言を発信していける新しい回覧板のようなもの、そういうサポートをいただけると嬉しい。

**区長** 大変貴重なご意見をいただいた。私も先ほど、今が仕込みの期間であり、収束した後というお話をさせていただきました。急なV字回復はなかなか難しい部分もあると思うが、収束を見据えた形で、私たちはいろんなことを今、考えていかなければいけないということで、素晴らしいことである。コロナから見えてくることを次に生かす、それからこの期間を大事にして色々なアイデア・工夫を考えていくことが大事であると感じた。

三ツ目通りの横断歩道については、東京都、警察等と調整を行っているところだが、この東武の鉄橋の下に橋の勾配があり、坂になっていて、横断歩道の設置というのがなかなか難しいというような話もあるが、収束後を見据えてこういうときに先に進めるということは肝に銘じて努力をしていきたい。

この間、小学校の子どもたちが各病院に医療従事者への感謝の手紙を書いて届けに行った。また、一度話題になったが、墨田区のごみ清掃職員に対して、地域の皆さんが、「こんな状況にもかかわらずありがとうございます」というような、手紙をごみ袋に貼っていただいた。それが自然にできることが墨田ならではのと感じた。そんな気持ちを持った区民の皆さんがいてくださることに感謝をしながら、そういう暖かい街を作っていきたい。

**区民〇** 千葉大学の学生で、墨田キャンパスが春からできるということで、2019年から様々な活動をしている。私はその中で、防災をテーマにして、地域のコミュニティ作りをしたいと考え、商店街の空き店舗を借りて週1回のワークショップを行っているが、コロナ禍ではやはり難しい。

私も今日いろいろお話を聞いて、新たなコミュニティに参加することをポジティブに、様々な工夫をして行うことが大事であると感じている。

**区長** この4月からいよいよ千葉大学の墨田サテライトキャンパスが開校し、10の学部を持つ総合大学、この皆さんと、そして建築デザインの皆さんに来ていただき、墨田区がさらに活性化していくと思う。若い皆さんの発想と活動力、そして地域の皆さんとの交流が図られると、この町はコロナ収束後にさらに大きく飛躍していくと思う。

それから、もう一つ、iU、情報経営イノベーション専門職大学、こちらは去年の4月から開校し、ICTの専門の大学で、先ほどからありました高齢者の皆さんや、ICT技術をどう活用していくかという大きなテーマ、ここの課題解決にも、千葉大そしてiUの学生さんたちと上手

く連携していくことによって、何かヒントや、前へ進んでいくきっかけになると思う。ぜひここは具体的に取り組んでいきたい。

それから、学生さんたちが空き家をリノベーションして活用していただく試みも墨田のフィールドの中で行っていただけると話題性があり、面白い取り組みとして発信できるのではないかと期待している。

**区長総括** 自分自身はオンラインでの参加というのは、なかなか慣れないものではあったが、逆に心配よりも、かえって様々なご意見を直接いただき、私は一部ですが、色々なお話もさせていただけた。こういう実施方法も私自身が先頭に立って取り組んでいくことで、町にも広まっていくのではないかとも思う。また、企画運営委員の皆さん、そして参加をいただいた皆さんに感謝を申し上げながら、今日発言できなかった方もいるので、次の機会を楽しみにしたい。

今日は貴重なご意見をたくさんいただいた。私たちは、今区の現場の中で、または地域の中で、どんなことが起きているのかということをもっと知ることが大事であると常に思っている。そしてその知った中で、どんな手を打っていくのか。そして決断し、行動に移すこと。今日のタウンミーティングは重要な場であった。収束後には、また大きな会場で、距離を取りながらだと思うが、顔を合わせて行う機会もあるかと思う。ぜひ皆さんの声を、遠慮なく、厳しい意見も含めてこれからも頂戴したい。

最後に、コロナに対してのご理解とご協力、そして、不要不急の外出の自粛等、お願いばかりで心苦しく思っているところであるが、まずはこのことをしっかり共有し、最終的には人の命を守っていくという中で、この期間、私は取り組んでいきたい。そして、このピンチをチャンスに変える。この苦しい時期を乗り越えて、終息後に本当に飛躍していけるように、大きく様々なものが動いていくように、前向きな気持ちを持って、そしてコミュニケーションを諦めないようにしながら、努力していきたいと、今日の皆様の声を伺い、改めて思った。

今後も様々なご意見を聞かせていただきたい。また、関係者の皆様に感謝を申し上げて最後のご挨拶とさせていただきます。

以上